

## ストック フェアリーシリーズ の栽培 ～高冷地～ 雑誌記事より

### \* 品種紹介

育苗時に鑑別を行わなくても八重率が95%以上となるスプレー咲タイプ。

スノーフェアリーは弁の重ねが特に美しい白色花。茎は硬く、水上げ・花保ちも良好で市場での認知度も高まってきた。ムーンフェアリーは高性の黄色花でスノーフェアリーよりも草丈が伸びる。

2015年からは晩生で丈が伸びやすいパールフェアリーが発売となる。

スプレー枝を切り取り小さな花器にも挿すことが出来るので、業務使用のみならず、家庭での装飾にも使い易い。切り取った枝は吸水効率が良く、花首が垂れることなく先端の蕾が開くまで楽しんで頂ける。

### \* 作型

3月播種で6月採花、7月播種で9～10月採花が高冷地での基本作型となり、年間2回の採花も可能である。ここでは7月播種作型について記述させて頂く。

### \* 栽培について

(播種) 発芽適温は20～23℃と比較的高く、発芽揃いは7日間以内と短い。288穴程のプラグトレイに1粒/穴ずつ播種し、覆土は種子が隠れる程度で均一の厚さになるようにすると生育揃いが良くなる。ペレット加工種子の器械播種、シーダーテープ加工後の直播種などの工夫もされている。

(育苗) 十分かつ均一な灌水を行う。育苗日数は20～25日。

(圃場) pH6.0程に調整。堆肥など有機物を適宜、全窒素量で1.5kg/a程を1～2回で施用する。栽培期間が80～100日前後であるので緩効性肥料60日タイプと液肥との組み合わせが良い。

(定植) 本葉2枚展開～4枚展開までに、苗の大きさを揃えながら定植する。植え方が浅いと後の灌水により倒れ易くなる。株元に軽く土を寄せるように丁寧な作業が肝要。ネットは定植間隔に合わせたものを1段張る。分枝の発達が良く茎が硬い性質を生かして10cm×10cm・5～8条定植をお勧めしている。主茎が太くなり過ぎることを防ぐと共に、丈を伸ばし不要な下位分枝の発達を抑制する長所がある。面積あたりの定植本数も多くなり収量増加にも繋がる。

(管理) 1本に4～5本の枝が付き、花茎長70cm以上の切花を得ることを目標として管理する。灌水は初期から発蕾までは十分に行い、その後は丈を見ながら次第に減らしていく。高温期の40～60%遮光は丈を伸ばす効果がある。ネットを上げる高さは20cmまでで良い。摘心は主茎花房の第1花が色付く頃から開いた頃までに、側枝を切り取らないように注意しながら花房ごと摘み取る。

(病気・害虫) コナガは育苗時から徹底した防除を行う。1mm目の防虫・防風ネットで囲うと薬剤散布回数を減らすことが出来る。晩秋出荷となる場合は灰色カビ病に注意する。

(収穫・出荷) 各枝1～2輪開花した頃に抜き取り収穫し、速やかに調整・水上げ作業に移る。若過ぎる枝と枝より下位の葉を取り除き、市販の前処理剤や界面活性剤などで水上げをする。僅かな風でも吸水を妨げる。風が当たらない場所で、ネットやスリーブで覆い十分に吸水させる。2Lサイズで50本/箱の詰量が主流。